‿.....*‿*

油断大敵！台風並みの暴風となる「春の嵐」「メイストーム」

‿.....*‿*

暖かくなる３月から５月にかけては、春の陽光に誘われて、山や海、公園など行楽地へと外出したくなる季節です。しかし、急速に発達した低気圧によって「春の嵐」や「メイストーム（5 月の嵐）」と呼ばれる激しい現象が発生し、台風並みの暴風や猛吹雪、海岸では高波となることもあるので、お出かけの際には十分な注意が必要です。

■「春の嵐」発生事例

2020 年 3 月 19 日 21 時に日本海にあった低気圧が急速に発達しながら北東へ進み、21 日 9 時には 966 ヘクトパスカルまで中心気圧が低下。

この低気圧により青森県八戸では最大風速 28.9 メートル／秒、最大瞬間風速 43.4 メートル／秒、北海道えりも岬では最大瞬間風速 36.4 メートル／秒を観測するなど、各地で非常に強い風が吹き、転倒などにより負傷者が出たほか、住宅の破損や停電、そして交通機関の乱れなど様々な被害が発生しました。

このように、春には低気圧が急速に発達して広範囲で暴風・強風をもたらし、災害を引き起こすことがあり、春の嵐と呼ばれています。

台風と同様、事前に気象情報に注意して、必要な対策をとることが重要です。

■春の嵐の脅威に備える

春の嵐によって大荒れの天気が予想されるときは、気象庁が次のような気象情報を発表します。

（1）数日前から 1 日前に「暴風に関する気象情報」

（2）災害のおそれのある強風（東京 23 区では 13 メートル／秒以上）となる 6 時間から 3 時間前には「強風注意報」

（3）その後も状況に応じて「暴風に関する気象情報」

（4）さらに、重大な災害のおそれがある暴風（東京 23 区では 25 メートル／秒以上）となる 6 時間から 3 時間前に「暴風警報」

（5）注意報・警報発表後も、「暴風に関する気象情報」で、刻一刻と変化する暴風の状況

「強風注意報」や「暴風警報」は、強風や暴風が吹き始める数時間前に発表されます。

強風注意報・暴風警報が発表された時点でまだ風が強くないとしても決して油断しないでください。

そして、暴風警戒期間にも注意して、なるべく屋内で待避するようにしてください。

* 強風注意報や暴風警報の発表基準は地域によって異なりますので、各地の基準は、気象庁「警報・注意報発表基準一覧表」をご確認ください。

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kijun/index.html

■暴風が予想されるときの対策と、特に注意が必要な外出先は？

暴風に関する気象情報が発表されたら、風が強くなる前に、建物や建物の周りを見直して、飛びやすいものは固定するなど、対策を行いましょう。

また、学校や会社などにいるときは、強い風によって交通機関がストップし、帰宅が困難になるおそれがありますので、気象情報や警報・注意報が発表された場合は、学校や会社の指示に従って早めに帰宅するなど、強風のピークを避けて行動しましょう。

◎強風への備え

・家の周囲やベランダに置いてある倒れやすいもの（物干し竿、植木鉢、自転車など）は固定するか家の中に入れる

・屋根や雨戸、シャッターを点検し補強しておく

・窓ガラスに飛散防止用のフィルムを貼っておく

◎強風が吹いているときは

・転倒・転落や、看板などの飛散物による負傷を避けるため、外出はできるだけ控える

・窓や雨戸、シャッターをしっかり閉める。雨戸などがない場合は割れた窓ガラスの飛散防止のためカーテンを閉める

●特に注意が必要な外出先

【登山・ハイキング】

春の山にはまだまだ残雪も多く、「春の嵐」の接近によって暖かい空気が流れ込んだ結果、雪崩が発生する危険があります。また、嵐の通過中は猛吹雪や強風で歩くのが困難になるほか、通過直後も急激な気温の低下で低体温症による疲労凍死に至るおそれもあるので注意が必要です。

【釣りやマリンレジャー】

強風や高波によって転覆のおそれがある船はもちろんのこと、防波堤、海岸にいるのも非常に危険です。春の海は天気が急変しやすいので、たとえ穏やかな天気であっても最新の気象情報に注意しましょう。

【川遊び、キャンプ】

強風でテントやタープなどが飛ばされるほか、特に河原では大雨によって急な増水や鉄砲水が発生するため警戒が必要です。

春の嵐は暴風だけでなく、高波や大雨、雷などを伴う場合があります。

これらの気象についても、暴風に関する気象情報とともに伝えられますので、十分留意して、安全にレジャーを楽しんでください。

以上